

東京都立小岩高等学校（2年目）

【校長】 長野 泰明 【生徒数】 1059名 【学級数】 27学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 授業（保健体育科）での取組
 - ・保健体育の授業で試行錯誤して生徒の実態に合ったよりよいICT活用方法を追求する。
 - ・学習中の様子等、全体の動きを撮影し、個々のICT端末で振り返ることができるICT活用環境について検討し、整備をする。
 - ・双方向でのやり取りが可能なフィードバック環境について検討し、構築をする。
- 特別活動の充実と連携を図った取組
 - ・体育の授業でのICT活用の取組を生徒が特別活動や他の教科、日常生活に活用する指導で個別最適な学びをする力の育成していく。

目標

- ・ICTの活用により、できなかったことができた喜びを体感できる生徒の増大 **78% → 85%**
- ・普段の日常生活において体力や運動技能の向上に向けた取組する生徒の向上 **67% → 73%**

【成果】

- 授業（保健体育科）での取組
 - ・ICTを活用する場面を限定することで運動量の確保が可能になった。
 - ・ICTの活用で課題を明確にすることで生徒の取り組みへの意欲が増加した。
 - ・映像を基に生徒同士の対話的な学習を行う姿の増加が見られた。
 - ・フィードバック環境の構築で前時の復習や課題解決に向けた個々の目標の確認が容易になった。
- 特別活動の充実と連携を図った取組
 - ・マラソン大会の事前授業でFormsを活用した課題を意識した取組で自己ベストを更新した生徒が増加した。

【1年目における実態・課題】

- 授業（保健体育科）での取組
 - ・ICTの録画場面を増やすと生徒の運動場面が減る。ICT活用をする場面とスキルアップを重視する場面を工夫した授業で運動量を減らさないICT活用を模索する。
 - ・師範となる動画をTeamsで配信し、自宅で確認、練習につなげる場面設定をする。
- ICT活用の振り返りの充実を図った取組
 - ・生徒が発見した課題をFormsで提出し、次時の授業で確認・宣言してから練習に取り組むよう設定する。また、普段の日常生活で工夫すべきことも記入させる。

【取組】

- 授業（保健体育科）での取組
 - ・理想的な運動技能の動画を授業開始時に視覚的に示し、上達のコツを意識させてから練習させるようにする。
 - ・一人1台端末等を活用して練習の成果についての動画を撮影する。
 - ・授業でできたことや次にすべきことの具体例をFormsで提出させる。
 - ・次回の授業開始時にFormsで提出した課題を確認させ、それを宣言させ練習させて、「わかる」⇔「できた」の実感を体験させる。
- 特別活動の充実と連携を図った取組
 - ・マラソン大会の事前練習の授業でFormsの活用で自己ベストタイム更新に向け、体力や運動技能の向上ができる生徒を育成する。

【取組（詳細）】

- ICT活用の改善
 - アルティメットの基本的な投げ方である「バックハンドスロー」「サイドスロー」の習得に焦点を当て、模範となる動画を拡大提示してから練習を開始した。
 - 「バックハンドスロー」「サイドスロー」の動作やディスクの軌道がわかる画角に着目させて、ICTを活用し、互いに動作や軌道の撮影をした。(写真➡)
 - ディスクの投げ方に関して5つのチェック項目を設定し、そのチェック項目や模範となる動画を参考に正確なスローができているかを確認しながら生徒同士で改善点を具体的に指摘し合いながら技能の習得を目指す姿が多く見られた。(写真➡)
 - Formsを用いた授業の振り返りを毎時間行う中で、チェック項目を意識して撮影した映像を見たり、模範となる映像を視聴したりすることにより、具体的な改善策の記入が見られた。また、生徒が改善策を実践することにより、できた喜びを体感する姿が見られた。

「わかる」(改善策を考える)⇔「できた」の実感を体験させる。



ディスクの軌道の動画撮影



動作と軌道の確認

Forms 自己チェックの記入内容の変化 (左は9/5に記入、右は9/26に記入)

2023-09-05T03:28:42.8631047Z

「ディスクをそれぞれのスローに応じた握り方で持っていたか」少しできた

「しっかりと足を踏み込み、ディスクに体重を乗せることができる姿勢で投げたか」できた

「ディスクを水平(または狙った角度)にしてリリースできていたか」少しできた

「投げる場所や人をしっかりと見て投げたか」あまりできなかった

「フォロースルーを行い、狙った場所・人に投げることができていたか」少しできた

2023-09-26T03:34:18.9763280Z

「ディスクをそれぞれのスローに応じた握り方で持っていたか」できた

「しっかりと足を踏み込み、ディスクに体重を乗せることができる姿勢で投げたか」できた

「ディスクを水平(または狙った角度)にしてリリースできていたか」少しできた

「投げる場所や人をしっかりと見て投げたか」あまりできなかった

「フォロースルーを行い、狙った場所・人に投げることができていたか」あまりできなかった

「成果」パスカットができたり、味方との、コンタクトや、コミュニケーションは、とてもできていたと思います

「課題」キャッチが、全く出来なかった、相手へのパスがいいポジションでできていたけど、距離が届かず、前で落ちてしまっている。

「解決策」しっかりと、前の力よりも、強い力で、そして回転を増した状態でパスを出す、キャッチはしっかりとフリスビー見て、手に当てるのではなくて、しっかりと掴むイメージを持っていこうと思う。

○特別活動の充実と連携を図った取組

- 長距離走の授業で前時の授業でうまくできていることと次回気を付けるべきことを、各自がFormsで視覚的に課題を確認させることでマラソン大会への取組意欲を高めた。
- Formsの記入を通じて、自らができていることについて「できた」の実感を体験させる。また、自らの課題を自分の言葉で書かせることで「わかる」ということを意識させる。「わかる」⇔「できる」のPDCAサイクルの習得にむけて、持久走の授業を通じて継続的な指導をしている。



マラソン大会（2月）